

かすみがうら市を代表する歴史資源

【風返稲荷山古墳】

風返稲荷山古墳は、昭和39年に日本大学考古学会によって発掘調査が行なわれた全長78mの前方後円墳で、くびれ部に箱形石棺、後円部下に横穴式石室が発見されました。箱形石棺の外側や横穴式石室の前室からは金銅製や銀製の馬の飾り金具2頭分、金銅や銀で飾られた大刀4振、銅製の鏡など豊富な品々が副葬されていました。

石室や石棺の構造、副葬品の年代等から7世紀前半の築造年代が明らかとなり、東国最終段階の前方後円墳と位置付けられています。埋葬された古代豪族は、大和政権との太いパイプを保持した存在であると共に、東国を代表する有力であることを物語っています。



【帆引き船】



帆引き船は、明治13年（1880）にかすみがうら市出身の折本良平によって発明された漁法です。帆引き船は、船を横向きにして帆に受けた風を動力に網を引く漁法で、主にワカサギやシラウオを漁獲対象に行われました。かすみがうら市では、この貴重な漁法を観光帆引き船として引き継ぎ、使用された船などは有形文化財に、漁師の操船・操業技術は無形文化財に指定しました。

帆引き船の発明によって、霞ヶ浦の魚食文化は全国に広まり、現在も霞ヶ浦の魚は佃煮や煮干しなど特産物となっています。帆引き船は、霞ヶ浦の漁業・魚食文化のシンボルと言えます。

【幕末の志士】

水戸藩天狗党、新選組、新徴組などかすみがうら市域は、幕末志士が数多く誕生したところです。近年は、新選組そして御陵衛士となった伊東甲子太郎に関する資料の新発見があり、話題を呼んでいます。伊東甲子太郎は、交代寄合本堂家の家臣の家に生まれ、水戸学を学び、江戸へ遊学、そして神道無念流と北辰一刀流を極めた志士です。新選組に入隊後は、京都で活動する中、坂本龍馬などとも交流を深め、国事に奔走しました。新しい日本を見据え、行動した伊東甲子太郎をかすみがうら市では、顕彰しながら偉大なる歴史人物として紹介しています。

